



【恐れに打ち勝てる神様の3つの贈り物】

聖書本文: テモテへの手紙 第二1章6-8節/暗唱聖句: テモテへの手紙 第二 1章7節

説教: 鄭南哲牧師

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん! 一週間も主の平安で守られましたか。早いものの今年も11月と12月しか残っていません。朝晩、寒くなって来ました。みなさんの心と体が主にあって健康で平穏な11月を迎えますよう我々の主イエスキリストの御名によって祝福します。

ヤマアラシというハリネズミみたいな動物のとっても切なる話を聞いたことがあります。ヤマアラシはいつもジレンマにあるそうです。一人で過ごすのが寂しくてほかのヤマアラシに近づくと相手のヤマアラシの針が自分を刺してきます。それで、一人になり、また寂しくなるとほかのヤマアラシに近づきます。しかし、また針に刺さって、再び一人になります。ヤマアラシは一生これを繰り返し続けるのだそうです。このようなヤマアラシの姿はまるで我々の姿のようではありませんか。ほかの人に心を開いたら返って来る事は傷だけのようです。それで誰にも心を開かず、自分ひとりで生きようと決心します。ところが、一人で過ごし続けるとあまりにも寂しいです。それでまた心を開くとまた傷つけられるばかりです。このような経験は対人関係への恐れを持たせます。対人関係においての経験だけではなく我々の心があまりにもデリケートで、弱いことも問題です。世界最強国であるアメリカ人が一年の間、購入する神経安定剤と睡眠薬の費用は約25億ドルだそうです。いったい、なぜそんな先進国の国民が何を恐れているのか神経安定剤と睡眠薬を買うのにあれほどたくさんのお金が使われているのでしょうか?

<1.恐れの原因>

私たちはいつも不安で、恐れています。一つの問題が解決されれば、つぎの問題がやってきて、その問題が解決されれば、さらに大きい問題に抱え込む、これが我々の人生です。自分を知って敵を知れば、百戦百勝（ひやくせんひやくしょう）と言われました。この恐れを克服するためには恐れの実体について知らなければなりません。まず、この恐れはどこから始まったのか調べてみましょう。創世記3章8節から10節まで御一緒に読んでみましょう。“そよ風の吹くころ、彼らは園を歩き回られる神である主の声を聞いた。それで人とその妻は、神である主の御顔を避けて園の木の間に身を隠した。神である主は、人に呼びかけ、彼に仰せられた。「あなたは、どこにいるのか。」彼は答えた。「私は園で、あなたの声を聞きました。それで私は裸なので、恐れて、隠れました。」”（創世記3:8-10）

人類最初にやってきた恐れは神様との関係が崩れた時から始まりました。アダムは神様の御声を聞いて恐れて園の木の間に隠れました。神様との関係が崩れる前は親しかった神様の御声が神様との関係が崩れてからは恐れに変わったのです。アメリカや日本のような豊かな国にもかかわらず、恐れて苦しんでいる人々は年々、急増しています。むしろ、経済的に落ちている国こそ幸福指数（こうふくしすう）は先進国より高いそうです。このように人の心にある恐れは座はお金でも、ほか何ものでも満たすことのできない、神様との関係において崩れた座から生まれたものです。

<恐れに勝てる神様からの3つの贈り物>

神様は恐れをもっている我々にその恐れを勝てる3つの贈り物を与えて下さいました。

その一つが‘神の力’です(本文:7節)。

“神が私たちに与えてくださったものは、おくびょうの霊ではなく、力と愛と慎みとの霊です(第二テモテ1:7)。”

使徒パウロは神様が私たちに与えて下さるものは恐れる心ではなく、“力”だと語っています。パウロが牢屋でエペソ教会の聖徒らのためにまず先に祈ったことはなんのでしょうか。それはエペソ教会の信徒たちの内なる人が強くなることでした。

“どうか父が、その栄光の豊かさに従い、御霊により、力をもって、あなたがたの内なる人を強くして下さいますように。”（エペソ3章16節）

パウロが内なる人が強くなることを一番に求めたということは何を意味しますか。それは内側が強くならなければ、勝てない多くの苦難と試練がやってくるということです。こんにち、この世で生きているすべての聖徒の内側が強くなるべき理由がここにあります。使徒パウロはエペソ教会の聖徒たちに襲い掛かって来る苦難についてこのように祈りませんでした。

“神よ。エペソ教会の聖徒たちがこれからもっとたくさんのお苦しみを受けるはずですが、ですから、早く私をこの牢から出してください。彼らを助けることができるように助けて下さい。”パウロは自分だけではなくほかのだれかがエペソ教会の聖徒たちを助けるように祈るより、むしろ彼らが強くなるようにと求めたのです。

我々の日本のイエスを信じている信徒たちの一番の問題はイエスを信じている信徒たちこそがとっても弱いということです。だれもが教会の信仰生活において傷つけられたと言いながら苦しんでいます。みなさんの心に“傷は謝絶（しゃぜつ）します!”だと心にちゃんと刻んでおいて下さい。何か、だれかがみなさんに傷を与えるのだとそのまま受けないで下さいという意味です。信徒は傷の代わりに神の恵みを選んで受けなければなりません。

すると、どうすれば傷つけられないでいられるのでしょうか。それは神の力です。パウロがエペソ教会の信徒たちのために祈られたように我々も強くならなければなりません。強くなるためには神様の御言葉が我々の思いとなり、知恵となり、行いに表されるべきであり、祈ることです。朝、夜祈る時このように告白し、求めなければなりません。

“神様、私の心に恐れがあります。心配があります。私は弱く、被害意識と劣等感で満ちています。だれかが私を好きじゃない目線で見ているようで傷になります。これ以上弱いクリスチャンになりたくありません。強いクリスチャンになるように力を

ください。

二つ目に恐れを勝てる道は愛です。

我々の中にある恐れを乗り越える武器は愛です(7節)。ヨハネの手紙第一に愛と恐れに対して次のように書かれています。

“愛には恐れがありません。全き愛は恐れを締め出します。なぜなら恐れには刑罰が伴っているからです。恐れる者の愛は、全きものとなっていないのです。(第一ヨハネ4：18)”

心から愛してしまえば恐れを打ち勝つことができます。相手に自分がやって上げた分の代価や期待を望まないで、ただ、私が与える愛、私が分け与える愛と力で熱心に愛していきましょう。そうすると恐れがなくなります。

三つ目、恐れを打ち勝つ道は自制です。

刀(かたな)が鋭いほど、刀のさやは必要です。これが自制が必要なわけですが。こんにち教会内で起きている様々な問題の一番の原因の一つは自制が足りない事にあります。言葉を制御できず、自分の感情を制御できず、自分の固執を制御できなかったため葛藤が生じます。我々は自制に自制し、さらに自制しなければなりません。エクセルを踏んだら時速(じそく)300キロまで走る高級ターボエンジンがついているスポーツカーは相当の良いブレーキが必要です。このようにクリスチャンにいつも必要なのは自制です。信仰が成長し、強くなればなるほど、自制が伴わなければなりません。自制はどんなに強調しても言い過ぎではありません。神様の恵みをちゃんと守り、保つことのできる大切な通路の一つが自制です。それが恐れを勝てる力になります。

今どんなことで恐れているのでしょうか。子供を見ると不安がありますか。状況を見たら、心配になりますか。イスラエルの民は約束の地であるカナンの地を目の前にして“私たちには自分がいなごのようにみえる。”(民数記13:33)と恐れている時、彼らに向って神様が怒った理由は何でしょうか。あなたがたの力でエジプトを出たのか。あなたがたの力で葦の海を渡ったのか。マナとうずらをあなたがたの力で得たのか。みな神様から与えられたのではないのでしょうか。自分の口で自分をみすばらしくしないでください。“私はできない。私の家庭はだめだ。わが子はもうだめだ。立派にはならん。”など、このような否定的な言葉を吐き出す時、イスラエルの民に仰せられた神様が私たちにもこう語ってくださると思います。

“わたしは生きている。わたしは必ずあなたがたに、わたしの耳に告げたそのとおりをしよう。”(民数記14:28)

愛する信仰の家族のみなさん。残りの二ヶ月の間、自分たちをいなごのようだと思ったり、言う人は人々は絶対勝てません。神様の御前で告白してその言葉の通りに戦いに負け、約束の地に入る事ができなかったイスラエルの民のように言わないで、行動しないで、“神様が我々とともにおられるので彼らは我々のえじきとなり(民数記14:9)、我々は十分に勝てる。できます。！”と神様に聞かせ、みなさんの信仰と告白のとおりになる恵みを経験する11月となりますよう我々の主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン！

今あなたはおそれないで、

見よ。あなたを導くわたしを見よ。あなたは疲れ果てないで。

見よ。あなたを救った日を。あなたを打った敵はどこにいるのか。

あなたを押さえつけた敵はどこにいるのか。

見よ。神の救いを見よ。神の力を見よ。

あなたのために戦う主の御手を見よ。

見よ。神の救いを見よ。神の力を見よ。

あなたのために戦う主の御手を見よ。